成長する人と地域

子どもは次代を担う地域の宝（みなかた保育園）

生涯を通じて学び、育ち合う

共に学ぶ仲間との交流と育ち合いは、いくつになっても、あらゆる世代にとって人生を豊かに彩ってくれます。地域の発展もまた、ここに生きることに価値を感じることのできる、住民の意識の成長とともにあります。

よろこびを分かち合える子育て

つどいの広場 バンビーニ

絵本や木のおもちゃがそろったフロアに、子どもたちの元気な声が響き渡ります。友だちと楽しく遊ぶ姿を優しく見つめるお母さんやスタッフたち。時に小さな争いがおきても、それは子ども同士の貴重な育ち合い…。

チャオ2階にあるつどいの広場「バンビーニ」は、乳幼児・保育園児とその保護者が気軽に集まり、遊んだりおしゃべりしながら友だちをつくり、情報を交換したりできる憩いの場。子育て世代のお母さんたちの要望を受けて、村の子育て支援策として平成18（2006）年10月にオープンしました。

現在の登録人員は440名ほど。村外者も利用でき、土日も含め常時3人のスタッフが子どもたちを見守っています。「休みの日も開いているので、買い物を兼ねて立ち寄ることもでき、とても便利」と利用者のひとりはいいます。

「ここはゆっくり憩える集いの場。だから指導のようなことはしないで、悩みも打ち明けられるような自由な雰囲気づくりを心がけています」と、スタッフのひとり矮松（わいまつ）芳栄さん（北組）は話します。バンビーニは親にとっても出会いの場であり交流の場。悩みを語り合い、子育てを学ぶ貴重な機会なのです。「子どもはみんなで育てるもの。そのために仲間が必要です。今は親子二人で過ごす時間が増えているので、まずお母さんたちが集える場にしたい」といいます。

バンビーニは、施策的には将来村を背負っていく子どもたちを健全に育てるための投資。チャオの賑わい創出という活性化の一端も担っています。

つどいの広場「バンビーニ」

若者住宅「アルプスハイツ中組」

総合的な子育て支援

子どもは地域の宝であり未来への希望。次の世代に村を託していくには、子どもを安心して産み育てることのできる環境を地域に築かなくてはなりません。

村では養育負担の軽減や、未満児保育、学童保育などの保育サービスを充実させ、子育て支援を進めています。また、家庭・地域・学校・行政が連携を強め、地域ぐるみで子どもたちの成長を育む取り組みを進め、地域に根ざした教育を実践し、ふるさとを愛する心をもった人づくりを進めています。

若者の定住促進では、若者向け住宅の整備などを進めてきました。

学校教育については、情報化・国際化など時流に対応した教育の推進とともに、郷土に愛着をもち人間性豊かで逞しい子どもを育てるために、教育環境の充実に努めています。

地域づくりの担い手を育てる

住民参加の村づくり

村の社会教育は、生涯学習の側面と同時に、生きがいや仲間づくりの場としても重要な役割を果たしてきました。社会教育で学んだ地域の担い手たちが、これまで多くの地域課題を発見し、解決を図ってきました。

生活に身近な行政サービスを担う、基礎的自治体である中川村の村づくりにとって、これからの時代は住民の知恵と力量を有効に活かすことが望まれます。住民一人ひとりが、主体的に村づくりの担い手として活躍できる仕組みづくりが求められています。

村では住民と行政が連携してお互いを理解し、目的を共有しながら合意形成を図ることのできる「住民参加の村づくり」を進めています。エネルギーを結集し実効性のある村づくりを行うために、施策形成過程への住民参加機会の拡充や行政情報公開の推進、「村長への手紙」など広報広聴活動の充実などに努めています。

住民参加は地域づくりの手段ですが、学習的な側面があります。地域の問題を発見し、その解決方法を考えるプロセスは、人が育ち合う地域づくり事業です。人と人の共感を積み上げながら、住民と行政の力量を豊かに強固にしていきます。

チームワークや自主性を育む体験キャンプ（陣馬形キャンプ場）

生涯学習の拠点、牧ヶ原文化公園周辺

一年の学習成果が披露される村文化祭・文化展